



あじけん通信 vol.10

2008年11月発行
発行所：TBC国際外語学院
企画・編集：水沼 正芳

日増しに寒くなり、マフラーをしている人やコートを着用している人の姿を多く見掛ける様になって参りました。吐く息も白くなり、いよいよ冬の訪れを感じさせられる機会が多くなってきましたね。

ここアジア研修センターには、今現在中国をはじめフィリピン・インドネシア・ベトナムからやって来た研修生の皆さんが滞在しています。暖かい地域からやってきた皆さんにとってみたら、きっと既に真冬のように感じられるのではないのでしょうか。

朝夕と日中の寒暖の差が大きく、日本人でさえも体調を崩しやすい時期なので、研修生の皆さんにも十分な体調管理を心がけて欲しいと思います。個人的に欠かさず行っている【うがい・手洗い】研修生の皆さんにも、是非習慣付けて頂きたいと思います。

何事も健康であってこそ！元気にここでの研修生活を送って欲しいと切に願っています。

生活支援トピックス vol. [月灯りの下、想いを乗せたバスは行く！] 研修生配属引率の巻

私たちの施設でおよそ1ヶ月の集合研修を終えた研修生の皆さんは、受け入れ企業さんに移動し、いよいよ本格的な実務研修を開始することになります。その際に用いられる移動手段は実に様々で、車での移動を初め、電車・新幹線・飛行機などが挙げられます。そして今回のトピックで登場する移動手段それは〈深夜高速バス〉です。

手荷物を携えた研修生の皆さんを引率して、東京都庁や新宿センタービルから発車するバス乗り場まで出向き、最後の見送りをするというお手伝いをさせて頂いています。

実際の乗り場は実に田舎者泣かせな場所にあるため最初は右往左往しましたが、最近ではバス会社の方に声を掛けて頂ける様になりました。私自身も学生時代によく高速バスを利用したことがありますが、深夜高速バスには、また違った印象を受けました。乗客の皆さんも様々で、再会を約束して別れる友人同士・1秒でも長く一緒にいたい気持ちがひしひしと伝わってくる遠距離恋愛のカップル・まだスーツが馴染みきっていない新入社員風の若者・息子夫婦が故郷に戻る予定だが、共働きで時間の無いために代わって荷造りをすべく上京し、広島まで帰るといふ初老のご婦人...etc. 様々な人間模様やバスに乗る人達の想いを乗せ、目的地へと向かっていくのです。

発車前の時間を使って乗車上の諸注意の説明や降車地の確認をします。一抹の寂しさが胸に去来しますが、感傷的にばかりになってもいられません！きちんと理解できているかどうかを確認するために「どこでバスを降りますか？」としつこく繰り返す質問したり、逆に質問を聞いたりした後、運転手さんに道中面倒をみて頂けるようお願いし、無事に発車するのを見送って任務完了となりますのです。発車後も、今頃はみんななどの辺りに居るのかな？無事に降車地で降りてくれるかな？...と毎回心配なのですが、翌朝「無事に着きました！」というご連絡を頂いた時にようやく〈任務完了〉できたという実感が湧いてくるのです。



～ インドネシア人研修生・中国人研修生・ベトナム人研修生のみなさん～



一路、目的地へ！